「避難生活支援リーダー／サポーター」研修について（令和４年度～）
（「避難生活支援・防災人材育成エコシステム」の構築）

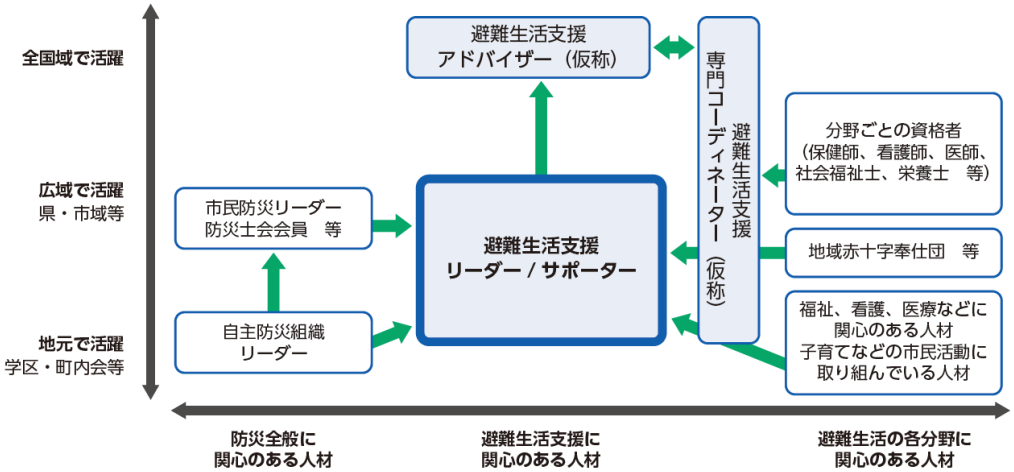
資料１

○　内閣府では、災害の激甚化・頻発化等により避難生活が長期化する中、地域のボランティア人材に、**避難生活環境改善のための知識・ノウハウを身につけてもらうためのモデル研修を令和４年度から開始**。

○　こうした取組を通じて地域のボランティア人材の発掘・育成を図り、発災時には行政職員や支援者等と連携し、**良好な避難生活環境の確保を図ることにより、「災害関連死・ゼロ」の実現**を目指す。

避難生活支援リーダー／サポーターとは

避難生活支援リーダー / サポーターの位置づけ



○　「避難生活支援リーダー／サポーター」とは、避難所運営の基本的スキルを習得し、自治体や支援者等とともに、避難所の生活環境向上に率先して取り組むことができる人材

○　当該人材を各地域で発掘・育成するために、内閣府主催の「避難生活支援リーダー／サポーター研修」を全国で開催

⇒　これ以外にも、さらにスキルアップを行い全国域での活躍が期待される「避難生活支援アドバイザー（仮称）」や、各分野の有資格者であり避難生活支援のスキルを習得した「避難生活支援専門コーディネーター（仮称）」を育成するための仕組み・研修プログラムも、引き続き、関係者や各分野のニーズ等も踏まえて検討

避難生活支援リーダー／サポーター研修（令和５年度）

研修プラグラム	・オンデマンド講座（事前視聴） ・基礎講義、グループ討議、演習　など、研修期間２日間
研修実施地区	・館林市（群馬）　・箕輪町（長野）　・関市（岐阜） ・島田市（静岡）　・岡崎市（愛知）　・三木市（兵庫） ・瀬戸内市（岡山）　・広島市（広島）　・八代市（熊本） ・嘉麻市（福岡）　の合計１０地区

研修テキスト

グループ討議

避難所の環境改善演習

令和５年度スケジュール

Ｒ５年度前半（４～９月）

○ 研修の先行実施（広島市）
○ Ｒ５年度研修カリキュラム検討
○ 研修実施自治体等との調整

Ｒ５年度後半（10～３月）

○ 研修の実施（他９地区）
○ 研修アンケート結果等の分析
○ 次年度に向けた改善検討

○ 来年度の研修について、自治体・関係団体等での開催を促すための検討（内閣府の役割・研修主催自治体等に対する支援の検討）
○ アドバイザー研修等の位置付け・枠組みの検討

○ 研修修了者の認定、データベース、マッチングの仕組み検討・構築

避難生活支援リーダー／サポーター研修（令和５年度：１０地区）

○　令和５年度は、各県に公募を行った上で、以下１０県（市町村）を選定

【注】「※」記載のある県は、昨年度（令和4年度）に続いて2年連続で研修実施

都道府県名	広島県	岡山県※	熊本県	岐阜県	静岡県	愛知県※	長野県※	群馬県※	兵庫県	福岡県
実施市町村	広島市	瀬戸内市	八代市	関市	島田市	岡崎市	箕輪町	館林市	三木市	嘉麻市
実施日（予定）	6/17(土)、18(日)	10/28(土)、29(日)	10/14(土)、15(日)	11/11(土)、12(日)	12/16(土)、17(日)	1/20(土)、21(日)	2/3(土)、4(日)	2/10(土)、11(日)	2/17(土)、18(日)	3/9(土)、10(日)
市町村の人口規模	120万人（政令市）	3.6万人	12万人	8.5万人	10万人	38万人（中核市）	2.5万人	7.4万人	7.5万人	3.3万人
参加呼びかけ予定の団体・組織	自主防災会、防災士、消防団員、大学生、中学生防災士 等	日本赤十字社岡山県支部、県及び実施市町村社会福祉協議会、日本防災士会岡山県支部、災害支援ネットワークおかやま、「災害時における被災者支援ボランティア協定」締結先16大学　等	市登録防災士制度に登録のある防災士　等	清流の国ぎふ防災・減災センター、関市災害ボランティア連絡調整会議、岐阜県災害ボランティア連絡会、岐阜県社会福祉協議会、岐阜県共同募金会、岐阜県民生委員児童委員協議会、日本赤十字社岐阜県支部、岐阜県災害派遣福祉チーム（岐阜DWAT）等	県内各大学（静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、聖隷クリストファー大学）、島田市社会福祉協議会、静岡県DMAT事務局、静岡DWAT事務局、災害ボランティアコーディネーター　等	日本赤十字社、NPO、ボランティア団体、あいち・なごや強靱化共創センター、教育機関、企業　等	自主防災組織（町内15行政区）、防災士連絡会、日赤奉仕団、町社会福祉協議会、町防災会議/避難所環境向上専門委員会、町消防団、長野県災害時支援ネットワーク（長野県社会福祉協議会、長野県NPOセンター、長野県生活協同組合連合会等）、日本赤十字社長野県支部、日本防災士会長野県支部　等	群馬県社会福祉協議会、館林市社会福祉協議会、日本防災士会群馬県支部、ぐんま地域防災アドバイザー（館林市在住者）、日本赤十字社群馬県支部、DMAT、DWAT、DPAT等の災害時支援チーム（所属医療機関）、館林市内の自主防災組織、館林市防災士連絡会　等	兵庫県防災士会、三木防災リーダーの会、日本赤十字社兵庫県支部、ひょうご防災リーダー養成講座の修了者　等	防災士会、NPO、社協、ボランセン　等
	開催済み						中止			

令和５年度
「避難生活支援リーダー／サポーター」モデル研修実施実績

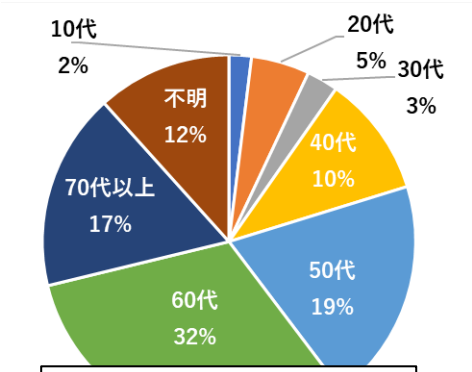
	受講者数 ※オブザーバー参加者を除く	修了者数 （２日間の参加者）	名簿登録者数
広島県　広島市	37	35	27
熊本県　八代市	39	37	29
岡山県　瀬戸内市	49	42	35
岐阜県　関市	37	34	32
静岡県　島田市	42	40	39
愛知県　岡崎市	52	50	49
計	256	**238**	**211**

令和４年度・５年度
「避難生活支援リーダー／サポーター」モデル研修実施実績

	受講者数	修了者数 （２日間以上参加者）	名簿登録者数
群馬県 前橋市	55	53	45
長野県 上田市	70	57	52
愛知県 美浜町	32	29	28
大阪府 吹田市	42	34	31
岡山県 矢掛町	60	46	36
広島県　広島市	37	35	27
熊本県　八代市	39	37	29
岡山県　瀬戸内市	49	42	35
岐阜県　関市	37	34	32
静岡県　島田市	42	40	39
愛知県　岡崎市	52	50	49
計	515	457	403

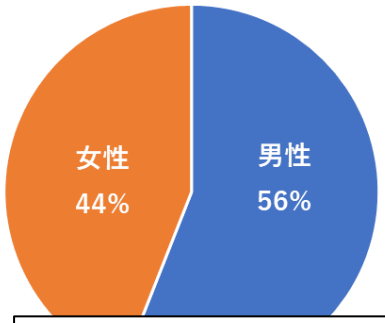
受講者属性（全モデル地域合計）

受講者年齢層（N=259）



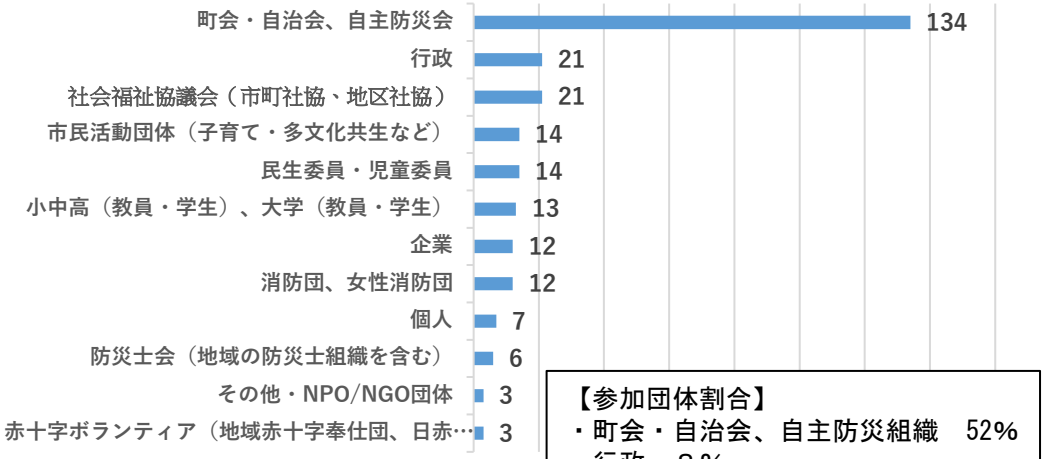
【年齢層】
約半数が60代以上
40代以下は、20%

男女比（N=259）



【男女比】
女性４：男性６

受講者の所属（N=259）



【参加団体割合】
・町会・自治会、自主防災組織　52%
・行政　８%
・社会福祉協議会　８%

研修先ごとの属性

	受講者特性
広　島　市	男性33名、女性16名　自主防災会からの参加が約７割を占め、その他　女性消防団、大学生、中学生防災士（オブザーバー）の参加があった。
瀬　戸　内　市	男性27名、女性19名　せとうち防災リーダーからの参加者が約４割、各地の社会福祉協議会からの参加者が約３割を占めた。
八　代　市	男性23名、女性16名　八代市登録防災士からの参加が半数、その他地域の住民自治協議会からの参加があった。
関　市	男性25名、女性10名　自治会連合会からの参加が半数を占めた。その他清流の国ぎふ防災減災センターやNPO団体からの参加があった。
島　田　市	男性15名、女性18名　男性より女性の参加が多かった。大学生や県内の防災系の市民活動団体からの参加があった。
岡　崎　市	男性30名、女性29名　トヨタ自動車株式会社など企業からの参加があった。最年少で小学生の参加者もいた。

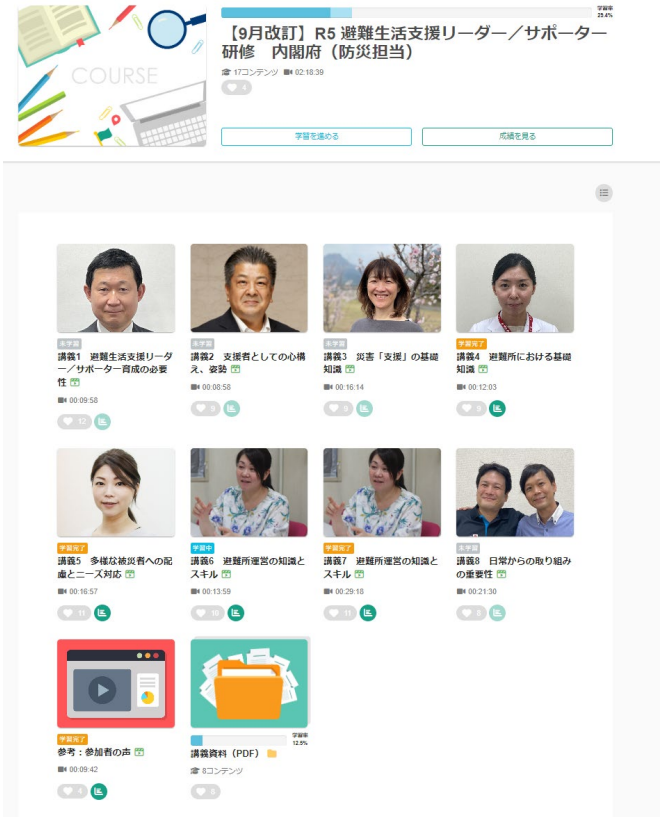
研修実施の様子（１）

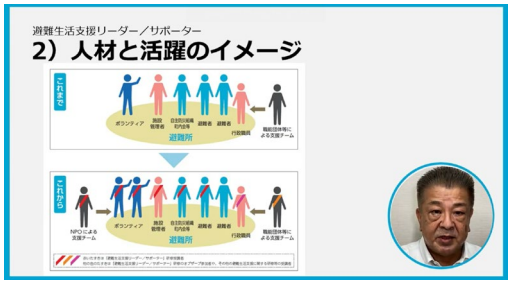
オンデマンド講座

	項目	講師
1	人材育成の必要性（10分）	村上威夫 氏（内閣府（防災担当）参事官）
2	支援者としての心構え、姿勢（９分）	栗田暢之 氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク代表理事）
3	災害「支援」の基礎知識（16分）	阪本真由美 氏（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）
4	避難所における基礎知識（12分）	辛嶋友香里 氏（ピースポート災害支援センター） 関真由美 氏（日本赤十字社医療センター）
5	被災者への配慮とニーズ対応（16分）	辛嶋友香里 氏（ピースポート災害支援センター）
6	避難所運営の知識とスキル①（14分）	浦野愛 氏（レスキューストックヤード）
7	避難所運営の知識とスキル②（15分）	浦野愛 氏（レスキューストックヤード） 辛嶋友香里 氏（ピースポート災害支援センター）
8	日常からの取り組みの重要性（21分）	三谷潤二郎 氏（倉敷市人権推進室） 松岡武司 氏（倉敷市社会福祉協議会）
参考	参加者の声（10分）	中村文哉 氏（長野県危機管理部危機管理防災課防災係） 清水大樹 氏（上田市危機管理防災課危機管理防災担当） 清野百花 氏（上田市国保年金課） 竹内秀行 氏（上田市民生委員）

↑熊本県八代市の実施以降新たに追加

※LMS（eラーニングシステム）、DVD視聴、上映会視聴いずれかの方法で演習1日目までに受講





研修実施の様子（１）

避難所運営研修１日目

項目	内容
（１）開会等 10：00～10：30	・開会挨拶／オリエンテーション
（２）講義・演習① 10：30～12：00	○講義：多様な被災者の理解とその配慮 ・被災地・被災者への理解 ・災害時における要配慮者の立場例 ○演習：被災者の心情や状況の理解 ・被災者と支援者のやり取りを再現した動画を紹介し、紹介された被災者の心情、困りごとを話し合う ・グループで検討した内容を発表・共有
12：00～13：00	昼食・休憩
（４）講義・演習⑫ 13：00～15：40	○講義：避難所の課題と生活環境の整備 ・避難所に必要なスペースとその機能 ・一日の流れ、活動内容、運営する上での留意点 ・運営に関わる担い手の理解 ○演習：避難所の課題と生活環境の整備 ・各スペースの巡回を行い、それぞれ「改善点」を話し合い、具体的な改善作業を行う ・各スペースの改善の発表と解説
（５）クロージング 15：40～16：00	・委員コメント／ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶

避難所運営研修２日目

項目	内容
（１）講義・演習① 10：00～12：00	○講義：対人コミュニケーション ・避難所におけるコミュニケーションの目的、基本 ○演習：対人コミュニケーション ・「被災者役」「リーダー／サポーター役」「観察者役」の３つの役となり、コミュニケーションの仕方を体験する ・グループでの演習結果を全体で発表・共有
12：00～13：00	昼食・休憩
（２）基礎講義② 13：00～15：40	○講義：運営の担い手との連携・協働の必要性 ・課題・困りごとを解決するのためのポイント ・被災者との情報共有、参加できる場づくり ○演習：運営の担い手との連携・協働の必要性 ・2日目午前中に検討した5つのケースについて、「被災者と一緒に取り組めること」「被災者以外の運営の担い手と一緒に取組むこと」を話し合う ・グループで検討した内容を全体で発表・共有、解説
（５）クロージング 15：40～16：00	・講師からのコメント ・名簿登録／修了証授与 ・ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶

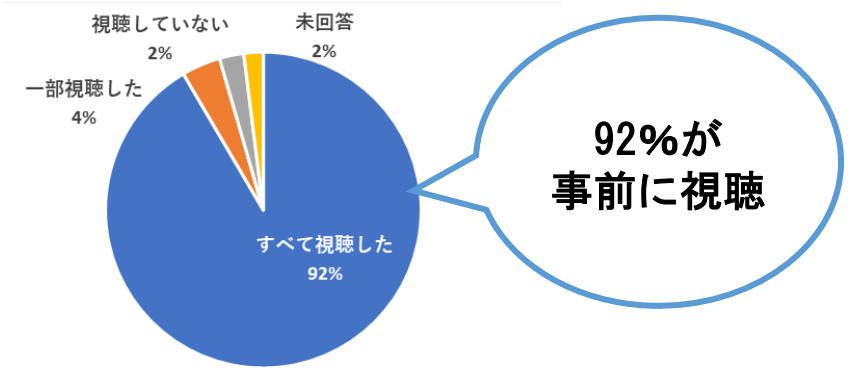
避難生活支援リーダー/サポーター研修モデル研修アンケート結果
（令和５年度実施６地域合計）

オンデマンド講座

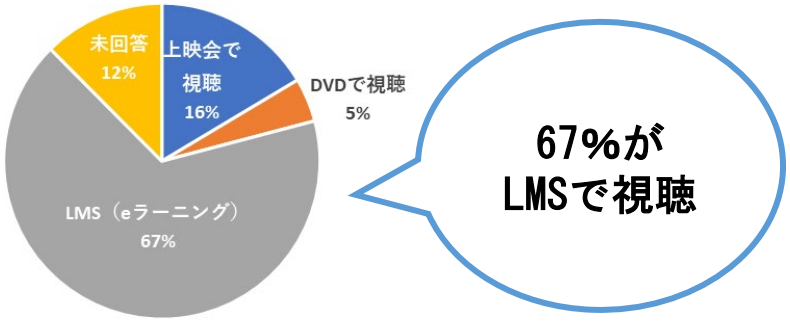
Ｑ１． オンデマンド講座の受講状況、受講方法

○受講状況　（N＝201）

※研修１日目実施3週間～1か月前までに受講者にオンデマンド講座の視聴機会を提供

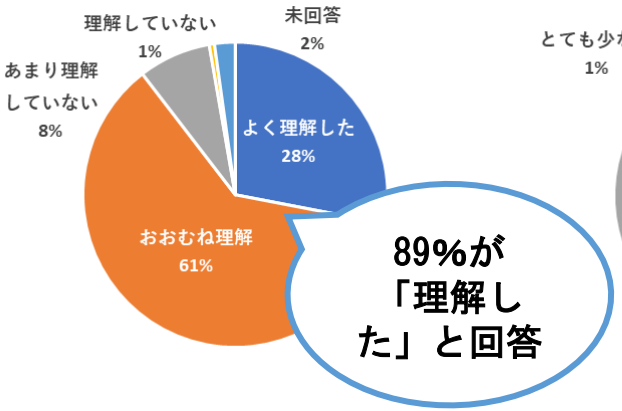


○受講方法　（N＝201）

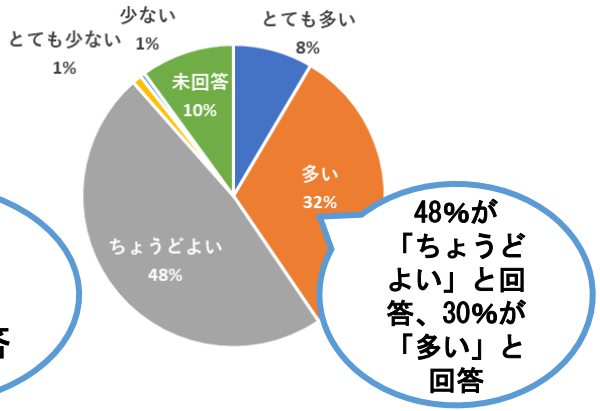


Ｑ２． オンデマンド講座の内容の理解度、情報量／長さ

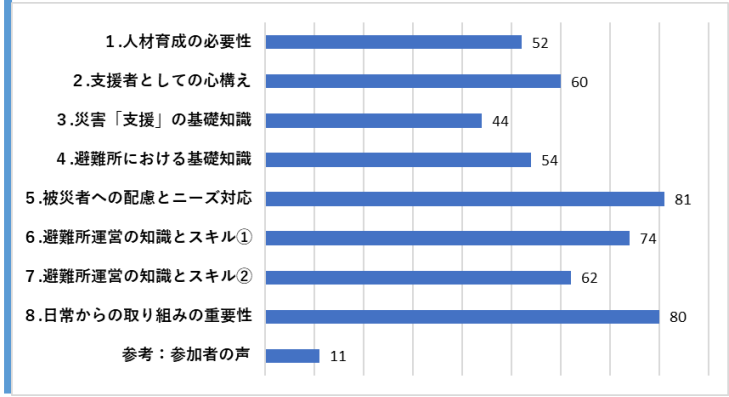
○理解度　（N＝201）



○情報量／長さ（N＝201）



Ｑ３． 印象に残ったプログラム（最大３つ）



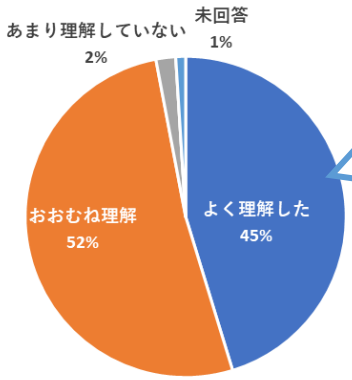
- 被災者支援制度などもきちんと理解しておく必要性は確かに高いなと思いました
- 避難者も支援者もつい頑張り過ぎてしまう、心と体の健康を保つためにも適度な頑張りが必要。意識する事の大切さが解りました
- 1つ1つが短く的確にまとめられていて、わかりやすい教材でした
- 避難所の運営の主体は避難者であるということが印象に残った

避難生活支援リーダー/サポーター研修モデル研修アンケート結果
（令和５年度実施５地域合計　※質問項目が異なるため広島県広島市を除く）

講義・演習１日目

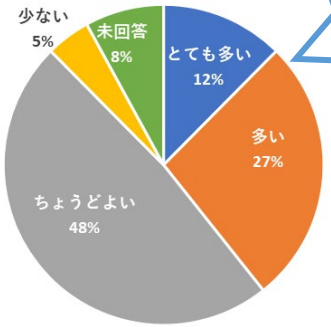
Q１．　１日目の全体の内容の理解度、情報量／長さ

○理解度　（N＝201）



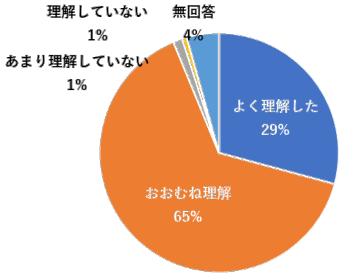
97%が「理解した」と回答

○情報量／長さ　（N＝201）



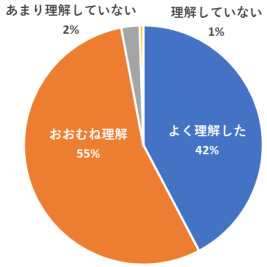
48%が「ちょうどよい」39%が「多い」「とても多い」と回答

Q２．　講義・演習１の理解度と印象に残った点



- 同じグループでリウマチの方がいて、色々リウマチの事を当事者目線で知る事ができて良かった。
- 被災者の気持ちの問題は一人一人違っており、対応の仕方もそれぞれであることが良く分かった。
- チームに分かれて話し合う中で、細かい点に気づく事ができた。一緒に考えてできた事が良かった。

Q３．　講義・演習２の理解度と印象に残った点



- アイディアは一人では浮かばない。他のグループのアイディアも食事コーナーの花、物資コーナーの需要掲示板など素晴らしかった。
- 環境の整備もその被災地や人に応じた整備がいること。一人で全てすることはできず、協力が大切。
- 複数人で改善すれば多くのアイディアが出ることが分かった。

Q４．　その他気になったことやご意見

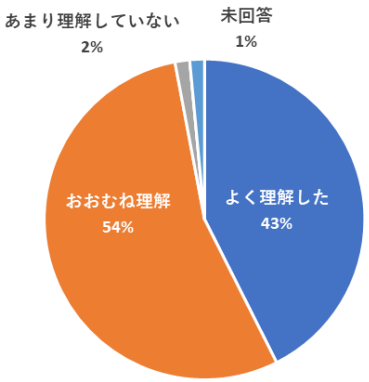
- 「自尊心」という言葉がとても心に響いた。災害になると置いてきぼりになってしまうので、いち早く心のケアができる自分になりたいと思った。
- 今までの講座とは違い、視点を変えてみる事ができた。
- 実際の現場でどこまで寄り添えるか不安。研修を受けることで少しでも役立つサポーターに成長したい。

避難生活支援リーダー/サポーター研修モデル研修アンケート結果
（令和５年度実施５地域合計　※質問項目が異なるため広島県広島市を除く）

講義・演習２

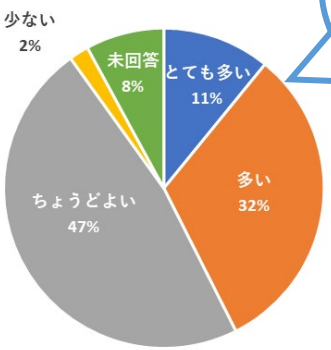
Ｑ１．　２日目の全体の内容の理解度、情報量／長さ

〇理解度　（N＝202）



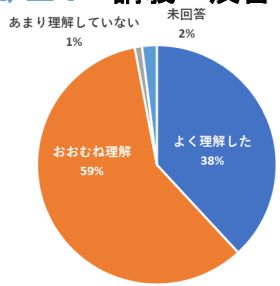
97%が「理解した」と回答

〇情報量／長さ　（N＝202）



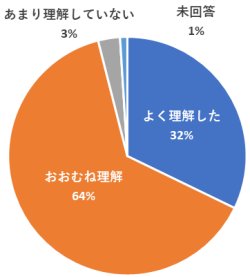
48%が「ちょうどよい」39%が「多い」「とても多い」と回答

Ｑ２．　講義・演習１の理解度と印象に残った点



- 目線を同じにし、相手の気持ちに寄り添って話し始めることが大事だと分かった
- 相手の話を聞く傾聴の姿勢・目線におりての相手の気持ちに寄りそう事の大切さを痛感した
- 初めての方への声掛けの難しさとテクニック（アプローチ）が重要と感じた

Ｑ３．　講義・演習２の理解度と印象に残った点



- ひとりの支援に多くの関係者がつながることで、安心につながることが理解できた
- 問題点が多岐に渡る事、解決方法がひとつでない事がわかった
- 地域にどんな団体がいるか知っておく必要がある。または、団体を知っているところと繋がっておくことが必要

Ｑ４．　２日間のプログラムを通してその他気になったことやご意見

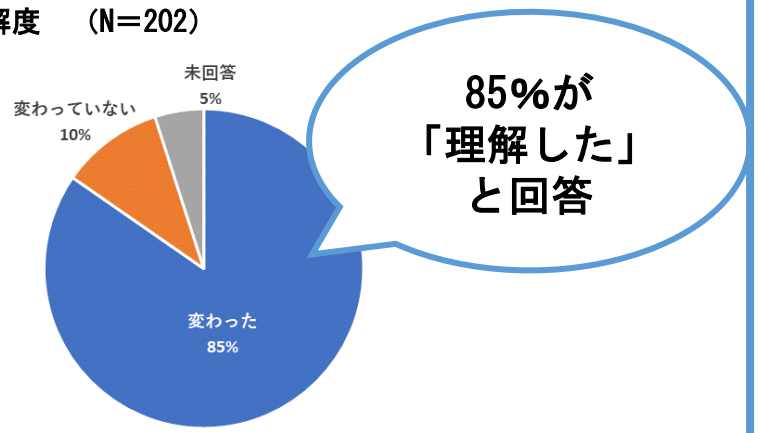
- とても充実した2日間だった。地元でもこういった研修を毎年実施してほしい
- 次の段階としてリーダーとサポーターに分けた具体的な役割を研修する必要があると思った
- 企画～実践まで行政や講師の皆様には大変お世話になった。開催が土・日で良かった
- 体験型で参加者自身が主体的に取り組む内容で勉強になった
- 行政や他団体などに頼るのでなく、住民の個々の力（住民自治）の大切さを感じた

避難生活支援リーダー/サポーター研修モデル研修アンケート結果
（令和５年度実施５地域合計　※質問項目が異なるため広島県広島市を除く）

研修全体を通して

Q１．　２日間の研修を受けて、避難運営の印象は変わりましたか。

〇理解度　（N＝202）



Q２．　「変わった」と回答した場合、どのような点が変わったか、お聞かせください。

- やってあげるのではなく、一緒にやろうという気持ちに変わった
- マクロ的な視点からしか避難所の状況がわからなかったが、本研修を通してミクロ的視点で見ることができるようになった
- 3・11（東日本大震災）からの避難所運営の印象が劇的に変わった。女性の参加者も多く、年代も様々だった
- 目から入る情報だけで被災者を判断してはならず、背景や属性なども含めて、話の中から引き出す大切さが理解できた
- 避難所運営の難しさを改めて知ると共に、他の何人かと組めば対応が十分可能になると感じた

Q３．　今後、避難生活支援リーダー／サポーターとして、どのような役割が担えそうですか。

〇自身の所属する団体でできること
- 傾聴ボランティア活動で支援していきたい
- 民生委員として、心を寄り添うことを自分の民児協に広めたい
- 今後、自主防災会での勉強会で参考にしたい
- 町内会長として避難者(住民)の困り事に対応したい。
- 避難者となっても、手伝うボランティアとしても、自分の立ち位置とそこでできることが自覚できるように思う。
- 自治体職員のため、避難者の方の要望や意見を聞き、できることからしていきたい。情報共有をしたい。
- DWATの活動の中で地域との結びつきや協働の意識をより強めていこうと思った
- 防災講習受講を自治会に促す

〇つなげる役割
- 被災者と行政・自治会をつなぐ役割
- 避難所運営に直接携わり、被災者の生活再建に役立っていきたい
- 防災士の方と更に連携をとっていきたい。
- 被災者と運営側との橋渡し役
- 被災者の方のニーズ、気持ちに気づき受け止め専門の担い手につなげる役割。また、お手伝いすることを担いたい

〇その他
- 必要な知識など、少しでも多くの人と共有していく
- 気付いたことを提案して行動していけたらと思う
- まだ具体的なことは言えないが、できるだけ幅広く担当できるように精進したい
- まだわからない
- 頼まれたことはやっていきたい